様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１２７０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６２２１

研究課題名（和文）邦銀の会計行動とその経済的帰結に関する実証研究

研究課題名（英文）Empirical analysis on bank accounting behavior and its economic consequences in Japan

研究代表者
高須　悠介（Takasu, Yusuke）

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・准教授

研究者番号：４０７５７３７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では邦銀の会計行動とその経済的帰結に関して研究を行い，5本の論文を執筆し，うち3本は既に公表済みである。具体的には貸倒引当金を保守的に計上している銀行ほど，（1）与信行動に対する景気変動の影響が弱いこと，（2）財務業績について効率的なリスク・リターン関係を達成していること，（3）報告利益に対して株式市場が好意的に反応すること，（4）利益平準化や赤字回避のための利益増加型利益調整を行う可能性があることが確認された。

研究成果の概要（英文）：　In this research, I analyzed bank accounting behaviors and its economic consequences in Japan and wrote five papers. Three of five papers are already published.
In particular, I found that (1) banks that recognize loan loss allowance conservatively tend to be unaffected by macro-economic cycles in terms of bank lending, (2) the conservative banks tend to achieve more efficient risk-return relation of financial performance, (3) positive earnings surprises reported by the conservative banks has a stronger effect on their share prices, (4) the conservative banks tend to manage their earnings to achieve smooth earnings paths or avoid negative earnings.

研究分野：財務会計

キーワード：財務会計　銀行　貸倒引当金　与信行動　利益調整　リスクテイク　資本コスト

１．研究開始当初の背景

本研究分野は，財務会計領域における貸倒引当金に関する研究であり，この分野では財務会計領域において関心を集める利益の質的属性に関する研究と関連づけて研究が進められてきた。一方で，そのような貸倒引当金の計上行動の違いが銀行行動や資金提供者からの評価に対して与える影響（株式価値評価や利益に対する市場反応，負債権者による評価など）に関する研究蓄積はまだ少なく，近年になってようやく蓄積され始めている。この背景には，近年の世界的な金融危機を契機とした貸倒引当金に関する会計基準の改定の議論が進んでいることが挙げられる。国際的な流れとして，現在では「期待信用損失モデル」の導入が検討・決定され，より適時的な信用損失の認識（貸倒引当金の計上）が可能となることが期待されている。こうした議論が活発に行われるようになるにつれ，期待信用損失を早期に貸倒引当金に反映することで銀行の与信行動にどのような影響が生じるのかについて研究が徐々に進められている。

２．研究の目的

本研究の目的は，我が国の銀行の会計行動とその経済的帰結に関して，実際のデータを用いて実証的に解明することにある。具体的には，邦銀による貸倒引当金の保守的な計上行動に注目し，そのような会計行動が事業会社に対する融資判断や銀行のリスクテイク及び資金調達環境に及ぼす影響について検討する予定である。近年，世界的な金融危機を契機として，金融機関の貸倒引当金に関する会計基準の在り方が国際的に議論されており，一会計項目に過ぎない貸倒引当金が経済全体に及ぼしうる影響について注目が集まっている。本研究では，“bank-oriented”な金融システムを有する国として位置づけられることが多く，諸外国と比較して銀行と事業会社のリレーションに関する日本独自のユニークなデータ・セットを利用可能である日本の銀行（及び事業会社）に注目することで，新たな学術的知見の獲得を試みる。

世界的に見ても，貸倒引当金の計上行動がどのような経済的帰結をもたらすのかに関しての研究は着手され始めた段階にあり，日本国内の研究に目を向けると，申請者の知る限り，同様の論点を扱う研究は見られない。

３．研究の方法

商業データベースから収集された日本の銀行の財務・市場データに基づいた実証分析により，次の論点について検討している。

（i）貸倒引当金の保守性と与信行動

①貸倒引当金の保守性と与信行動の量的側面

期待信用損失を早期に認識する会計行動を貸倒引当金の保守性と定義した場合，その保守性と与信行動の関係性を解き明かすことは期待信用損失モデルが注目された理由の１つであり，関心の高いトピックである。

本研究では先行研究に基づいて，銀行の財務内容から統計的に予想される貸倒引当金水準よりも高い部分を貸倒引当金の保守性と定義し，それと与信行動の関係性について分析を行っている。

特に本研究の特徴は２つあり，１つは個々の企業の借入先銀行に関するデータに注目した銀行・企業・年の観測値を用いていること，もう１つは金融機関の貸出態度に注目したマクロ変数を導入することでマクロの平均的な与信環境が貸倒引当金の保守性と与信行動に及ぼす影響に注目していることである。

②貸倒引当金の保守性と与信行動の質的側面

上記の論点に加え，貸倒引当金の保守性と銀行の将来業績の関係性について分析を行っている。前述の論点が与信行動の量的側面であり，後者は与信行動の質的側面に対する貸倒引当金の保守性の影響に関する研究である。将来業績としては会計利益及び総資金利ざやの将来５年平均，将来５年標準偏差，シャープレシオ（平均÷標準偏差），下方リスクに注目している。

（ii）貸倒引当金の保守性と利益特性

③貸倒引当金の保守性と利益調整行動

定義から，貸倒引当金の保守性は計上されている貸倒引当金の水準そのものを高めることになる。一方で，貸倒引当金には相当程度の裁量性があるとされており，貸倒引当金の高まりは利益調整の温床となることもまた懸念されている。そこで本研究では，貸倒引当金の保守性の高さが，銀行の損失回避や利益平準化行動に影響を与えているかないかについて分析を行っている。具体的には，事前に保守的に貸倒引当金を計上している銀行とそうでない銀行との間で，貸倒引当金純繰入額を通じた利益調整行動（利益平準化，損失回避，減益回避，予想達成）に違いが見られるか否かを検証する。

④貸倒引当金の保守性と利益評価

加えて，上述のような裁量性の高まりは利益情報に対する信頼性に影響を及ぼす可能性があり，本研究では実際の利益水準と株式市場が事前に予想していた利益水準の差（利益サプライズ）に注目し，利益サプライズに対する反応の大きさと貸倒引当金の保守性との関係性についてもイベントスタディーにより検証している。

（iii）貸倒引当金の保守性と資金調達環境

利益がどのような特性が有しているかは資金調達コストと関係性を有していることが先行研究では指摘されており，本研究では貸倒引当金の保守性と銀行の資本コストの関係性について分析を進めている。

４．研究成果

本研究を通じて以下の分析結果が得られている。

（i）貸倒引当金の保守性と与信行動

①貸倒引当金を保守的に計上している銀行ほど，金融機関貸出態度判断 DI で計測された与信環境が悪化している時期に貸倒引当金の保守性が低い銀行と比較して与信に積極的になる傾向にあること，逆に与信環境が良好な時期には貸倒引当金の保守性が高い銀行ほど与信に消極的になる傾向にあることが判明した。（論文 1，国際英文ジャーナルのレフェリープロセス）

②貸倒引当金を保守的に計上している銀行ほど，将来の財務業績に関してその水準には有意な差異が見られない一方でボラティリティは低い傾向にあることが確認された。このことは，貸倒引当金の保守性が高い銀行ほど，リスク・リターンの観点から見た与信行動の効率性が高いことを示唆している。（論文 2，ワーキングペーパー）

（ii）貸倒引当金の保守性と利益特性

③貸倒引当金を保守的に計上している銀行ほど，貸倒引当金を通じて利益平準化や赤字回避のための利益増加型の利益調整を行う可能性が高いことが確認された。期待信用損失に対して貸倒引当金を保守的に計上している場合，貸倒引当金を高く計上することになるため，貸倒引当金を通じた利益調整行動を助長する可能性があることを示唆しているといえる。（論文 3，公表済み）

④貸倒引当金の保守性が高い銀行の正の利益サプライズに対して株式市場はより強く反応する傾向があることを確認している。これは会計処理の保守性が高まることにより市場参加者の利益情報の有用性が高まることを示唆している。（論文 4，公表済み）

（iii）貸倒引当金の保守性と資金調達環境

当初，邦銀の株主資本コストを推定し，会計行動との関係性を分析する予定であったが，十分なデータを収集することができなかった。そのため，代替的な方法として先行研究で提示された株主資本コスト推計方法を適用することを考え，まず日本における当該推計手法の妥当性について分析を行った。その結果，事業会社については当該推計手法によって推定された資本コストの妥当性が担保されることが確認された。（論文 5，公表済み）

今後は当初の目的を達成するため，銀行業のデータを用いた場合の当該推計方法の妥当性の検証，およびその推計から得られた資本コストと貸倒引当金の保守性との関係性について実証的に検討していく予定である。

これら分析結果を踏まえると，貸倒引当金の保守性を高めることは与信行動の安定性・効率性を高めること，利益調整の機会を拡大させる可能性があるものの，市場からは好意的に評価されていることに繋がっており，期待信用損失の反映は好意的に解釈することが可能である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①Yusuke Takasu and Makoto Nakano
“Conservative loan loss allowance and bank lending,”
Working paper, 2017.
（国際英文ジャーナルレフェリープロセス）

②Yusuke Takasu
“Conservative Loan Loss Allowance and Risk Taking,”
Working paper, 2017.

③高須悠介・中野誠
「貸倒引当金の保守性と利益評価」
『横浜経営研究』，36 巻 3/4 号，33-54 頁，2016 年。（査読なし）

④高須悠介
「日本企業のインプライド資本コスト推定とその妥当性」
『横浜経営研究』，37 巻 1 号，235-255 頁，2016 年。（査読なし）

⑤高須悠介・中野誠
「貸倒引当金の保守性と利益調整」
中野誠編『マクロとミクロの実証会計』第 13 章，中央経済社，2017 年。（査読なし）

〔学会発表〕（計 2 件）

①Yusuke Takasu and Makoto Nakano
“Conservative loan loss allowance and bank lending,”
European Accounting Association 39th Annual Congress, Maastricht, Nederland, 2016/5/11-13.

②Yusuke Takasu and Makoto Nakano
“Conservative loan loss allowance and bank lending,”
American Accounting Association Annual Meeting, New York, America, 2016/8/6-10.

６．研究組織
(1)研究代表者
高須　悠介（TAKASU YUSUKE）
横浜国立大学・大学院国際社会科学研究
院・准教授
研究者番号：40757374